ISSN 2186-5647

P-92

沖縄伊是名集落における石垣築造と教学本作成に関する気づきについて　その２

日大生産工　○前後　知早弥　日大生産工（院）　深井　泰幸
日大生産工　篠崎　健一　東京理科大学　藤井　晴行

本論文は、「沖縄伊是名集落における石垣築造と教学本作成に関する気づきについて　その１」から続くものである。

6. 考察

4名の学生は, 石垣築造未経験の状態から「教学本」を手がかりに石垣築造の知恵を学び,実践を試みた。また、「教学本の解釈と実行の関係シート」（Fig.3）を作成した結果，同一の情報源である「教学本」を用いながらも,4名の学生の積み方が各々異なることが確認された。それは, 教学本の記述に対して多様な解釈が生まれたと考えられる。

教学本3-1から前後は,「ぐわ石が隙間なく詰まっているようにする」と解釈し,「自分で定めた、もしくは水糸によって定めた高さままで外側の面を揃えるように積み石を置いたら、内側を安定させるようにぐわ石を敷き詰め全体の高さを揃える。」と記述する。一方で林は,「ぐわ石が隙間なく詰まっているように解釈した。」記述するが,「集落にある既存の石垣をみて，風を通す隙間がある方が良い」と学び,個人の教学本に「ぐわ石を使って積み石を座らせるのではなく, 積み石だけで座らせる場所を見つけることで, 必要最低限の量のぐわ石で積造することができる。よって，自然と石垣に通風の隙間が生まれる。」と記述する。

教学本3.3-2から前後は,「外側の積み石を面を揃えながら積む」と解釈し,「個人の教学本」に「外側の積み石を面を揃えながら積み終わったら整地しながら高さを揃え, また上から積み始める。」と記述する。一方で教学本3.4-7から林は,「角地には角（エッジ）のある石を使って積むと認識した」と解釈するが,「角地の石積みなどでは角（エッジ）のある石にこだわりすぎてしまうと、石を探すことに注力してしまう。近くに寄ってみると角（エッジ）がない石でも引いて見ると石垣全体にはエッジが生まれるため、あまり石に強いこだわりを持たずに積むことが重要である」と記述する。すなわち,経験を踏まえて教学本の理解を改めることがあるため,「教学本には失敗した経験談も記述することで,より正確に意図を伝えられる」と考えるに至った。

7. まとめ

本研究では,教学本に基づいた実践を通じて,教学本の解釈と実践の関係を明らかにすることを試みた。今後は,これらの知見を踏まえ，意図が正確に伝わる教学本に改善する必要がある。

謝辞

伊是名集落における研究は，東京理科大学藤井晴行研究室（2025~，教学本制作・研究は東京工業大学・東京科学大学藤井晴行研究室）と日本大学篠崎健一研究室が共同で行っている。伊是名集落の皆様とこれまでの両研究室で調査研究にあたった関係者の方々に謝意を表する。

参考文献

1) 篠崎健一，藤井晴行，佐藤幸峰，高野真実：琉球民家の雨端空間の持続と変容について - 沖縄伊是名集落に現存する伝統的琉球民家の空間変容の探究，日本建築学会計画系論文集 第90巻 第832号, 1177-1188，2025.
2) 日本大学篠崎健一研究室，東京工業大学藤井晴行研究室，芝浦工業大学平田貞代研究室の学生及び指導教官：『伊是名の石積みマニュアル』, 2019.
3) 篠崎健一，藤井晴行．ほか, 沖縄県伊是名集落調査まとめ（5冊組），空間図式研究会，2020. 3
4) 篠崎健一，藤井晴行, 土着技術の継承の構成的方法論 － 琉球民家の石垣築造からの気づき ，日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）, 2024号, pp. 1047-1048, 2024. 7
5) 宮田諒, 篠崎健一, 藤井晴行, 平田貞代， 沖縄伊是名集落後辺の石垣築造とマニュアル作成による気づきについて-土着建築技術の継承方法の探究 その３-, 日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）2019号, pp. 1143-44, 2019. 7

「沖縄伊是名集落における石垣築造と教学本作成に関する気づきについて　その3」に続く。

Reflection on Coral Stone Fences Construction and the Development of Educational Materials in Izena Village, Okinawa: Ⅱ

Chihaya ZENGO , Yasuyuki FUKAI ,
Kenichi SHINOZAKI , Hiroyuki FJII

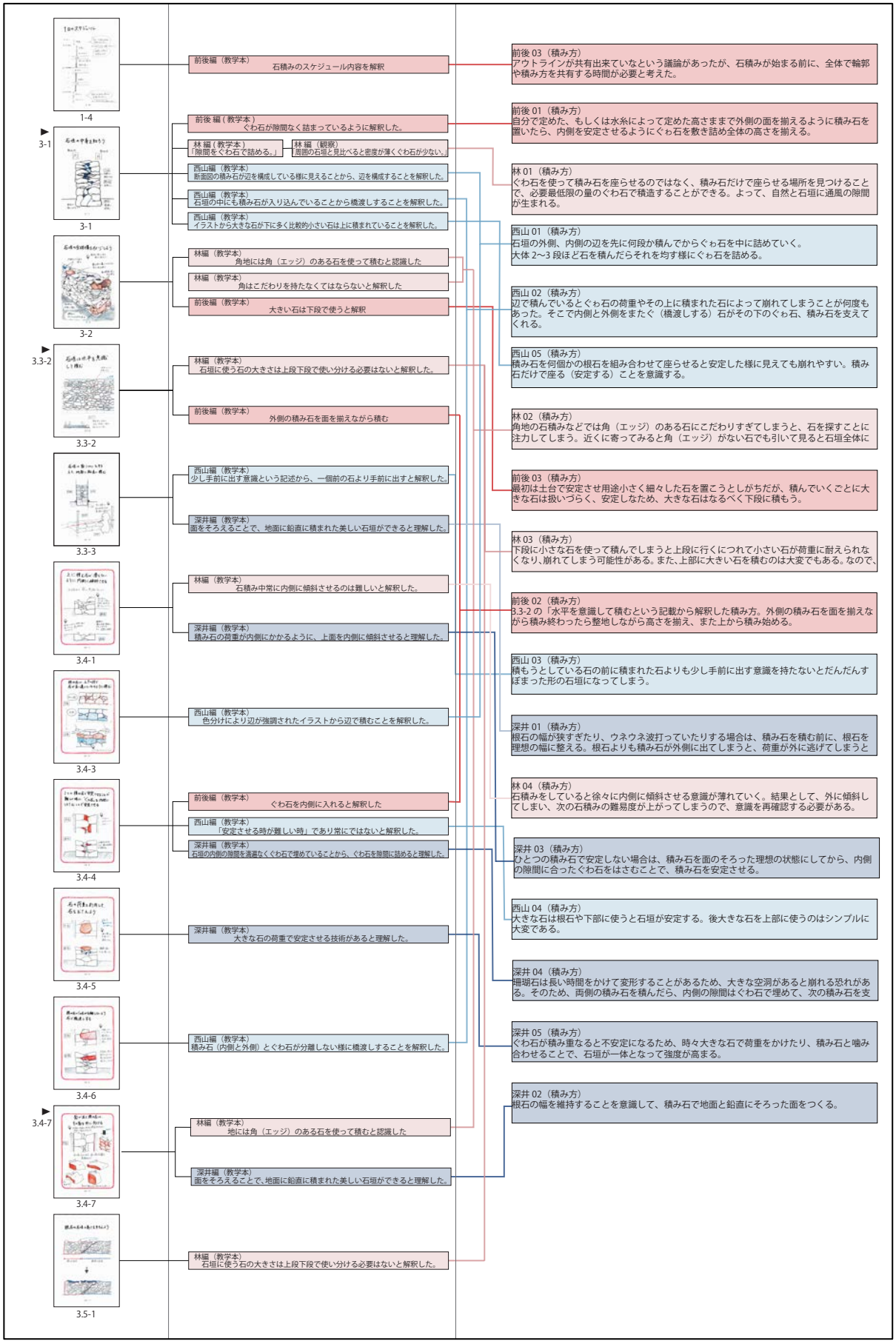

Fig.3 教学本の解釈と実行の関係シート